



つ北小だより

No. 9

つつじが丘北小学校

平成28年1月8日
校長 上田 祥市

「閉校の年に、感謝と希望を」

校長 上田 祥市

新年明けましておめでとうございます。春を思わせるような穏やかな年の始まりとなりました。保護者・地域の皆様には、旧年中、本校の教育活動に温かいご理解とご支援を賜り、ありがとうございました。本年もよろしくお願ひします。

さて、つつじが丘北小学校が閉じるまで、残り84日。子供たちが学校に通う日は、54日となりました。3学期は、まとめの学期と言われますが、今年は、学校としてのまとめの最後の学期となります。

今日の始業式で、つつじが丘北小学校の校章と校歌の話をしました。



開校当時の教員として校章を作成された坂井康宣さん（本校第3代校長）は、校章に込められた意味をこう話されています。「昭島市民として市民憲章を守り、つつじが丘北小学校の子供としての誇りをもって成長していくことを願い、デザインしました。ツツジの花を囲む五角形は「丘」の字を表し、昭島市のマークの中に「北」の字を配しました。力強さと純真な心、やさしさと、手をつなぐ子供たちの協力と調和のとれた精神を願っています。」

校歌を作詞した中村千栄子さんは、歌詞の思いをこう書き記しています。「皆さんの学校は、武蔵野の一角にあり、爽やかな風がいつも吹いています。その中で学ぶ皆さんの心は、いつも朝焼け色に輝いてほしいのです。そう、昭島市の花『つつじ』の花の色のように…。」

作曲していただいた栗原正義さん。「ある時は全校児童が心一つに歌い上げ、またある時は愛唱歌のように口ずさんだり、友だちと一緒に声をそろえて合唱したりする。そしていつまでもなつかしく思い出すような校歌をもてたらどんなにすばらしいか。」こんな思いですてきなメロディをつけていただきました。

子供たちと校章や校歌を作ってくくださった方々の思いを改めてかみしめながら、始業式の最後に、舞台緞帳の校章を見上げ、全員で元気に校歌を歌いました。



3学期の朝会では、つつじが丘北小学校の歴史を振り返る話をしていきます。これから1日1日が心に刻む日々になります。そして、気持ち新たに新校へと旅立つ四月に向けて、子供たちに感謝と希望の気持ちをもたせていきたいと思ひます。